

今を未来に

連絡表の見方について 道徳の評価が追加されました。

連絡表をつける時、どの学年も「評価基準」というものを作成しています。「評価基準」には、どんなことで、どこまでできたら◎にする、○にする・・・ということが書かれています。そうした「評価基準」を学年で決めるために、学校の基準はおおむね以下のように決めています。



【学習の様子】について

1年生：○=できました △=もう少し

到達目標のおおむね80%以上達成しているときは「○」がつきます。

2年生以上：◎=よくできました ○=できました △=もう少し

到達目標のおおむね90%以上達成しているときに「◎」がつきます。

おおむね**70%以上**達成しているときは「○」がつきます。

ただし、項目によって・学年によって、到達目標が上下することがあります。テストの点数だけでつけることがないからです。

本校では、4年前に上記のように評価基準を見直しました。そのきっかけは、①全国学力・学習状況調査や到達度検査（当時はCRT検査・現在はNRT検査）を通して点数に表れる学力が全国平均を大きく下回る状況にあったこと、②それまでの評価基準では2年生の評価基準が1年生の評価基準より20%甘くなっていて、学習評価がどう上がったのか伝えにくい状況にあったこと（「できる」の評価基準が1年生が80%で、2年生が60%であったため）、③学校づくり協力者会議（現在の学校運営協議会）で中学校から見た時に評価基準が甘すぎるのではないかとの意見をいただいたことにありました。また、中学校へ進学した生徒の保護者から「小学校の成績は全部○以上だったのに、中学校では5段階評価で2がつくことがある。なぜ？」と聞かれたこともありました。

こうした評価基準の見直しは、毎日の授業の到達目標を引き上げ、授業そのものが改善されることになりました。また、学校の学習だけでなく家庭学習の手引きの見直しも行い、現在お知らせしている学習時間に質・量ともに意識して取り組むように、各家庭のご協力をお願いしてきました。初年度は平日の学習時間が目標に到達せず、「だらだらして時間だけ到達しているように記録している」「土日は勉強をしなくてよいと思っている」という声が保護者の方から多かったのですが、土日も決めた時間の家庭学習や自主学習に取り組む子も多くなってきました。今年度の1学期の様子は、若干マンネリ化してきたのか、改善傾向がやや鈍る結果となってしまいました。そのため自主学習に頼らず目標時間の8割ほどは宿題にかかるようにしようと、見直しをした学年もあります。今年度の全国学力・学習状況調査の結果は8月下旬に出てきますが、自校採点の結果は県の平均をどの教科もこえているというものになっています。保々小の子どもたちは全国・三重県の子どもに比べて学力が定着していないと一括りに言われることはなくなったと言えます。

今日から個別懇談の時間をとっていただき、連絡表をお渡しします。連絡表は、お子様のがんばりをお伝えするものです。加えて、私たちの授業づくりが子どもたちの力にどう結び付いたかを振り返るために、学期ごとにつけています。もちろんテストの点数だけで評価をすることはありません。宿題などに毎日取り組めたか、自主学習にどの内容でどの程度取り組めたか、ノートや日記などに習った漢字が使われているか、授業中の発言回数やその内容などを加味して評価をしています。また、連絡表は担任や専科の教員から見えていることを元にして評価します。そのため、お子様の頑張っている所を精一杯知らせたいと思って、いろいろな記録をとり、評価をしますが、全てではありません。◎や○などの記号では表すことができなかつたお子様一人ひとりの頑張りがそこにはあります。お家の方から連絡表を渡してもらう時に、私たちには見えていなかった頑張りの部分を、是非励ましの言葉とともに、お子様に伝えてあげてください。よろしくお願いいたします。

2年生から5年生は、標準到達度検査NRTの個人結果もお渡しします。

個別懇談会の時に、NRT検査の個人結果をお渡しします。この検査は、4月に行い、前年度の学年（例：2年生であれば1年生の時）の学習内容をどれだけ身に付けているのかを検査するものです。新しく出会った学年の子どもたちの学力面での強みと弱みをつかみ、授業改善に生かすことを目的に行っています。そのためこの結果は、連絡表の評価対象外となっています。以下に、今年度の2年生から5年生までの学年の結果をお伝えします。なお、以前まで受けていたCRT検査との違いとして、CRT検査は個人の絶対評価、NRT検査は学年の相対評価の結果が出ていることが挙げられますので、その結果もお伝えします。その結果によって、授業づくりの方向性を見直したためです。



以下に、全体的な結果から考えた指導の工夫・改善と家庭学習との関連についてお伝えします。指導の改善・工夫などが「・・・していきます」と、これから取り組むように表現してありますが、その多くはすでに取り組みを始めています。夏休み期間中や普段の家庭学習において、各ご家庭でお子様へ働きかけをしていただく際の手掛かりとなる内容も記載してありますので、是非ご一読ください。

【5年生到達度検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語と算数ともに、全国平均を下回る結果となりました。また、分野によって大きな課題が見られる結果となりました。また、国語・算数を合わせた相対評価の結果を見ると、上位7%（5段階評価で5にあたる子）に、本校の5年生は1人も入っていないという結果でした。

2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

（強み）国語：「辞書を活用すること」「漢字の読み・書き」について十分に力がついている子が多いという結果となりました。昨年度同様、漢字の定着が見られ、大きな強みと言えます。

算数：「角」の学習について十分に力がついているという子が多いという結果となりました。特に三角定規の角度についての理解は全国平均を大きく上回っていて、学習内容の定着が見られます。

（弱み）国語：「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域で全国平均を下回る結果となりました。特に「話すこと・聞くこと」の「目的に応じて話すこと」に関しては、全国平均を大きく下回り、大きな課題が見られます。

算数：全領域で全国平均を下回りました。特に「いろいろな図形」「平行・垂直」の問題で、正答率の低さが見られます。また、「面積の単位換算」や「面積を求める式の意味」の問題についても正答率が低く、基本的な理解に課題が見られます。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

普段の国語と算数の学習の様子から、課題に対してまじめに取り組むことはできています。一方で、弱みにあるように、「話すこと」に関しては課題があり、自分の思いを伝えられない子が多いのも事実です。間違えることや他の子と異なる答えにたどりつくことを嫌い、わかったふりをしてしまう子が多くいる現状があります。

まずは、子どもの困り感の共有ができるように、わからないことを教えてと相手に訊いたり、相手がどこでどのように困っているのかを見つけたりするような「聴き合い」を行うようにしていきます。授業の最後にはキーワードを入れたり、条件をつけたりし、授業の振り返りを書く活動を行っていきます。算数では基本的な用語の知識の定着ができるよう、今まで習ったことも授業の最初に復習しながら進めています。また、授業をリードしていただだけの力をつけている子が検査結果から、とても少ないことがわかってきました。算数では習熟度による編成で行う授業時数を大幅に増やしています。

4. 家庭学習にかかわって

基礎学力の定着はこの学年の子どもたちにとって大きな課題となっています。しかし、家庭学習の振り返りから、金土日の学習時間が短いこと、時間を気にしてその内容を充実させることができていない子が多くいることがわかってきました。基礎的な力をつけるためにも、引き続き、課題がより見られる算数の学習の土日プリントを出していきます。

また、宿題に出していた算数の小数の問題では、同じような問題に取り組んでいるのですが、誤答が多く、なかなか学習内容が定着していきません。5年生ではありますが「宿題はやったか」だけでなく、「丁寧な字で取り組んでいるか」「題意をしっかりと捉えて問題に取り組んでいるか」「名前はしっかりと書けているか」などをお子さんといっしょにチェックしていただきたいです。また、「テレビを消して集中して学習を行っているか」など、学習環境についても改めて見直す機会を持って取り組んでいただくと、お子様に力をつけていくことにつながるかと考えます。

【4年生到達度検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語・算数ともに、全国平均を大きく上回る結果となりました。また、国語・算数を合わせた相対評価の結果を見ると、5段階評価で4以上の評価にあたる子が50%（半数）いることがわかってきました。

2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：「漢字の構成、読み・書き」など基本的な言語力については、多くの子が十分に身につけていると言えます。「ローマ字を書くこと」についても、十分な知識が身につけていると言えます。

算数：「分数の計算」、「二等辺三角形や正三角形の知識・理解」、「図形」、「数量関係」などの領域において、全国平均を上回っていることから、基本的な学習内容は理解し、バランスよく定着していると言えます。

(弱み) 国語：「目的に応じて適切に話すこと」「話題に沿って話し合うこと」という「話す・聞く」ことの領域で、全国平均よりも若干下回る結果となりました。

「指示語の理解」「辞書を活用すること」という「伝統的な言語文化と国語の特質」の領域でも、全国平均よりも下回る結果となりました。今回の結果を見ると、「指示語の理解」に最も大きな課題があります。

算数：「目的に応じた長さや重さの計測」の領域においてのみ、全国平均を下回る結果となりました。実際の量感覚をつかむことが課題です。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語の学習では、積極的に発表をする姿が見られるのですが、上記の弱みにもある通り、「目的に応じて適切に話すこと」、「話題に沿って話し合うこと」ができていないことがあります。今後も、子ども

たちが意欲的に話し合える活動を大切にしながら、目的に応じて話したり話題に沿って話したりして、話し合いの質の向上を目指していきます。そして、そういった話し合い活動の中で、適切な話し方について、また話題に沿って意見を述べることについて、その都度丁寧に指導していきます。また、学習の中で日常的に国語辞典を使わせたり、文章を読み取る際も指示語にこだわらせたりと、弱みを克服する手立てを授業の中に意図的に取り入れていきます。

算数では、分度器を使って角度を測る問題で目盛りを読み間違える姿があります。これは、角度の量感覚が不十分だと分析しています。90度、180度、270度、360度という基本的な角の大きさがどれぐらいなのかを理解させ、測る角度はだいたいどれぐらいかを量感覚のイメージと合わせて予想させながら角度を測らせていきます。これは、長さや重さを測るときも同様と考えています。社会で水について学習する際に、「一人が一日に使う水の量」を話し合った時にも、mlやdlの単位が出てきたり、非常に多かったり少なすぎたりする予想を立てる子が多くいました。日常生活と結びつけながら、“目的に応じた”計測ができるよう指導していきます。

4年生の子どもたちの授業を受ける姿勢（授業規律）は決して褒められたものではありませんが、以前学校だよりでお知らせしたように、一人ひとりが自分の考えを持ち、言いたい・聞いてほしいという意欲を持って、授業に向かっています。さらに学力を伸ばしていくためには、「友だちの意見を聴き取る力」が求められます。授業の中で友だちの意見を聞いて、自分の考えを深めていくことができた子をきちんと褒めていくようにします。

4. 家庭学習にかかわって

家庭学習の習慣は身につけているのですが、自主学習などに取り組んでいる子は、まだまだ少ないです。自主学習でどんなことをすればいいのか、友だちはどんな学習をしているのか等、自主学習の仕方について学校からも発信していきます。それを参考にしながら、積極的に自主学習にも取り組んでほしいと思います。また、集中して学習に取り組めるよう、学習の前に学習環境を整える習慣を身につけていかなければなりません。その際、すぐ手の届くところに国語辞典や漢字辞典を置き、家庭学習においても日常的に辞典を活用してほしいと思います。

【3年生到達度検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語は全ての領域で全国平均を下回っています。算数はほぼ全国平均と同じ結果となりました。また、国語・算数を合わせた相対評価の結果を見ると、上位7%（5段階評価で5にあたる子）に、本校の3年生は1人も入っていないという結果でしたが、平均以上という子が全体の4分の3を占めていることがわかりました。

2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

（強み）国語：「大事なことを聞き取ること」と「言葉の意味やまとまりを知る」ことについては、一定の力がついています。

算数：九九をはじめとする「かけ算の計算」「かさ」や「はこの形」についての理解はできている部分が多く、強みと言えます。

（弱み）国語：「話題にそって話し合うこと」「主語、述語を正しくおさえること」「句読点の使い方」の理解と技能には大きな課題があります。また、順序を考えたり正しく書いたりする力や、物語・説明文の主題、要旨を読み取る力も高めていく必要があります。

算数：「たし算やひき算、かけ算の立式」に大きな課題があります。式を立てる際、問題の意味を捉えて数量関係や四則計算を扱い、意味を持った式とすることについて丁寧に取り組んでいく必要があります。これらは国語で文章の要旨を捉えることとも関連します。また、「ものの形」の概念を捉えることや、それぞれの図形を特徴づけていく中で、区別をしながら「ものの形」を理解する力も十分ではありません。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語では、文章の要旨や、主題をについて読み取る力が不足しているために、算数の文章問題や国語の記述問題、社会や理科の学習内容理解にも影響が出ていると思われます。そこで、簡単な文章から、要旨を常に意識する読み取りの練習をしたり、自分の話で最も伝えたいことを効果的に話したりすることを授業でも始め、生活の場でも意識させていきます。また、算数の「ものの形」の捉えに課題が見られることと関連して、漢字の正しい認識ができにくく、間違っただまま書き進めていることが目立ちます。正しい形を覚えられるよう、大きくはっきり書くことや、自分や友だちの間違いを確かめ合うなどして、正しい認識の手助けや「書く」活動に慣れる学習を進めていきます。

算数は、「たし算やひき算、かけ算の立式」に大きな課題があります。読むことへの抵抗感から、文章題への苦手意識も見られます。今年度は「わり算」も加わり、四則の簡単な計算が既習事項となります。そこで、自分で図を書いたり、具体物を使ってイメージしたりして、式を立てるために必要なポイントを考えさせたり、なぜその答えに至ったのかを、子ども自身が順を追って実際に説明する学習に多く取り組んでいきます。

4. 家庭学習にかかわって

昨年度は、テレビがついていたり音楽が流れていたりするまま学習していて、集中し取り組むことができないことが課題として挙げられていましたが、改善できた子とそうでない子の二極化が進んでいることが一学期の家庭学習の振り返りから見えてきました。自律的な学習への取り組みを進めるという面では、机などの片づけをしてから取り掛かることも、昨年度からの継続課題です。「宿題・勉強はした。」としても、「空欄なく書いているのか」「答え合わせはしているか。」「名前や日付が書いてあるか」などの点検をお子さんとしていただくことや、家庭内外での生活で、「ものの名前」や「時刻表の見方」など、生活に必要なスキルを少しずつ伝えていただくことも効果的です。3年生は、2年生から比べて教科も増え、毎日の時間割も大切です。必ず前の日の夜までに翌日の準備をして翌朝点検してでかけるなど、自分から環境を整えて学習に向かうことができるよう、家庭での協力を引き続きお願いします。また、日常生活のなかで身につける語彙をふやすことも大切です。例えば、普段の学習で「商店街」「代金」「塀」「性質」などは、「知っている」という前提で問題に出されることも多く、おうちの人に説明を加えていただきながら、ニュースや新聞記事などに関心を持たせることも有効だと思われます。

【2年生到達度検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語と算数のどちらも、正答率ではほぼ全国と変わらない結果となりました。また、国語・算数を合わせた相対評価を見ると、5段階評価で4か5にあたる子が41%、3にあたる子が34%と、やや平均を上回る結果となりました。

2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：「説明的な文章を読むこと」と「丁寧な文と普通の文の理解」については、力がついていると言えます。

算数：「図や絵を用いて数える」については、力がついていると言えます。その中でも、数を整理することは定着が進んでいると言えます。

(弱み) 国語：「文学的な文章を読むこと」には大きな課題があります。特に、場面の様子を読み取ることが苦手であると言えます。

「伝わるように話すこと」、「話題に沿って話し合うこと」にも課題があります。

算数：「たし算とひき算」に課題があります。基本的な計算、特に繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算についての理解を深め、確実にできるようにする必要があります。

「数の意味や表し方」のうち「数直線上の数」を読み取ることに課題があります。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語は、「文学的な文章を読むこと」に課題があります。教科書等の何度も音読を繰り返し、授業で読み進めた文章については読み取ることができますが、初めて読む文章の読み取りに苦手があります。たくさんの文章に触れる機会をとって、文章について自分の考えを持つことができるように学習を進めていきます。

算数は、「たし算とひき算」に課題があります。基本的な計算の仕方や仕組みについて、日々の授業や朝の学習などを通じて、指導していきます。特に、繰り上がりや繰り下がりや仕組みの理解は難しいため、数カードやブロックを活用する操作活動を行ない、理解の定着を図ります。

4. 家庭学習にかかわって

毎日の家庭学習は定着してきていますが、休日の学習時間が確保できていないことが1学期の家庭学習の振り返りからわかってきました。宿題として出されているものだけでなく、読書や自然の観察など自主的な活動に取り組むことで生きた学力がついていきます。自主学习用のノートが渡してありますので、自分で学習をする習慣をつけていきます。

「字をていねいに書いていますか。」という質問に多くの子どもたちが「もう少し」と答えています。学習時間の長さだけでなく、学習に取り組む時の「姿勢」や「環境整備」についても声掛けをお願いします。

また、おうちの方と決めたゲームや動画視聴の時間が守られていないことにも大きな課題があります。おうちへ帰ってからの時間の使い方をこの機会に振り返り、規則正しい生活ができるよう、家庭での協力を引き続きお願いします。

保々小学校ではここ数年、2年生の子どもたちの到達度に課題があり、昨年度この学年の子どもたちは、宿題で反復練習に当たる内容を多く出しました。上級生の1年生の時に比べて、宿題の量が多いのではないかとのご意見をいただいていた学年でしたが、今回のNRTの結果からも宿題量とその内容は適切であったと言えます。

【おわりに】

この内容は、子どもたちにも各担任から学年や発達段階に応じたかたちで伝えます。結果をもとに、教職員間で授業改善を図ってきたつもりですが、課題となる姿がまだまだ見られるのが現状です。もちろん教員の専門性として、授業づくりの力を高める必要があります。校内でも研修を進め、子どもたちの「困り感」を土台とした「聴き合い・語り合う授業づくり」を進めようとしているところです。これによって、子どもたちがなかまとともに「主体的で対話的な学び」をすることにつながり、学力がついていくと考えています。学校全体としては、子どもたちが自分の意見を出すことや、なかまと考え合うことが、自分やなかまの学力保障につながってきていると実感しつつあるところです。今後も、指導の工夫や改善に努めてまいります。

